# 平成１８年３月期　個別財務諸表の概要

平成18年5月19日

上場会社名　株式会社 静 岡 銀 行　　上 場 取 引 所　：東　証
コード番号　８３５５　　本社所在都道府県　：静岡県
（ URL　http://www.shizuokabank.co.jp/ ）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 代　表　者 | 取締役頭取 | 中西勝則 | |
| 問合せ先責任者 | 執行役員経営企画部長 | 中村彰宏 | TEL（054）261－3131（代） |
| 決算取締役会開催日 | 平成18年5月19日 | | 中間配当制度の有無　有 |
| 配当支払開始予定日 | 平成18年6月28日 | | 定時株主総会開催日　平成18年6月27日 |
| 単元株制度採用の有無 | 有（1単元1,000株） | | |

## １．１８年３月期の業績（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

### （１）経営成績

（注）金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

| | 経常収益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| １８年３月期 | 172,458 | ( 10.5 ) | 52,702 | ( 11.0 ) | 31,368 | ( △ 10.5 ) |
| １７年３月期 | 156,079 | ( 1.7 ) | 47,465 | ( 5.2 ) | 35,039 | ( 31.6 ) |

| | 1株当たり当期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり当期純利益 | 株主資本当期純利益率 | 経常収支率 | 預金残高 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 円　銭 | 円　銭 | % | % | 百万円 |
| １８年３月期 | 44　24 | － | 4.7 | 69.4 | 6,759,075 |
| １７年３月期 | 49　41 | － | 5.8 | 69.6 | 6,780,264 |

（注）① 期中平均株式数　18年3月期 708,335,335株　17年3月期 708,580,367株
② 会計処理の方法の変更 無
③ 経常収支率 ＝ 経常費用／経常収益×100
④ 経常収益、経常利益、当期純利益におけるパーセント表示は、対前期増減率

### （２）配当状況

| | 1株当たり年間配当金 | | | 配当金総額（年間） | 配当性向 | 株主資本配当率 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 中間 | 期末 | | | |
| | 円　銭 | 円　銭 | 円　銭 | 百万円 | % | % |
| １８年３月期 | 10　00 | 4　25 | 5　75 | 7,082 | 22.6 | 1.0 |
| １７年３月期 | 8　50 | 3　50 | 5　00 | 6,022 | 17.2 | 1.0 |

### （３）財政状態

| | 総資産 | 株主資本 | 株主資本比率 | 1株当たり株主資本 | 自己資本比率(国際統一基準) |
|---|---|---|---|---|---|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円　銭 | % |
| １８年３月期 | 8,610,582 | 721,849 | 8.4 | 1,019　15 | [速報値] 13.46 |
| １７年３月期 | 8,339,656 | 620,544 | 7.4 | 875　93 | 13.38 |

（注）① 期末発行済株式数　18年3月期 708,254,911株　17年3月期 708,403,010株
② 期末自己株式数　18年3月期 11,874,158株　17年3月期 11,726,059株

## ２．１９年３月期の業績予想（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

| | 経常収益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たりの年間配当金 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 中間 | 期末 | |
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円　銭 | 円　銭 | 円　銭 |
| 中間期 | 91,000 | 30,000 | 15,000 | 5　00 | － | － |
| 通期 | 177,500 | 62,000 | 35,000 | － | 5　00 | 10　00 |

（参考）１株当たり予想当期純利益（通期）　49円37銭

（注）上記の予想は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因により、これらの業績予想数値とは異なる可能性があります。

株式会社 静 岡 銀 行

# 第１００期末（平成１８年３月３１日現在）貸借対照表

（金額単位：百万円）

| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| （資産の部） | | （負債の部） | |
| **現金預け金** | **383,795** | **預金** | **6,759,075** |
| 現金 | 83,608 | 当座預金 | 333,017 |
| 預け金 | 300,186 | 普通預金 | 3,352,598 |
| **コールローン** | **3,061** | 貯蓄預金 | 129,157 |
| **買入金銭債権** | **253,923** | 通知預金 | 16,728 |
| **特定取引資産** | **85,917** | 定期預金 | 2,556,284 |
| 商品有価証券 | 9,540 | 定期積金 | 32,789 |
| 特定金融派生商品 | 35,302 | その他の預金 | 338,499 |
| その他の特定取引資産 | 41,073 | **譲渡性預金** | **196,100** |
| **有価証券** | **2,352,779** | **コールマネー** | **104,512** |
| 国債 | 725,863 | **債券貸借取引受入担保金** | **79,924** |
| 地方債 | 176,016 | **売渡手形** | **206,000** |
| 社債 | 459,433 | **特定取引負債** | **32,682** |
| 株式 | 442,966 | 特定金融派生商品 | 32,682 |
| その他の証券 | 548,499 | **借用金** | **4,799** |
| **貸出金** | **5,340,895** | 借入金 | 4,799 |
| 割引手形 | 76,177 | **外国為替** | **128** |
| 手形貸付 | 335,591 | 外国他店預り | 3 |
| 証書貸付 | 3,826,752 | 売渡外国為替 | 112 |
| 当座貸越 | 1,102,374 | 未払外国為替 | 12 |
| **外国為替** | **5,059** | **社債** | **200,482** |
| 外国他店預け | 2,110 | **その他負債** | **57,533** |
| 買入外国為替 | 1,753 | 未払法人税等 | 7,910 |
| 取立外国為替 | 1,195 | 未払費用 | 6,964 |
| **その他資産** | **37,782** | 前受収益 | 3,029 |
| 前払費用 | 4,794 | 従業員預り金 | 3,330 |
| 未収収益 | 9,684 | 給付補てん備金 | 14 |
| 先物取引差入証拠金 | 50 | 金融派生商品 | 6,986 |
| 金融派生商品 | 6,977 | 繰延ヘッジ利益 | 750 |
| 繰延ヘッジ損失 | 21 | その他の負債 | 28,546 |
| 社債発行差金 | 8 | **退職給付引当金** | **23,792** |
| 社債発行費 | 491 | **繰延税金負債** | **71,937** |
| その他の資産 | 15,755 | **支払承諾** | **151,763** |
| **動産不動産** | **59,132** | **負債の部合計** | **7,888,733** |
| 土地建物動産 | 55,735 | （資本の部） | |
| 建設仮払金 | 1,322 | **資本金** | **90,845** |
| 保証金権利金 | 2,073 | **資本剰余金** | **54,898** |
| **支払承諾見返** | **151,763** | 資本準備金 | 54,884 |
| **貸倒引当金** | **△63,414** | その他資本剰余金 | 14 |
| **投資損失引当金** | **△113** | 自己株式処分差益 | 14 |
| | | **利益剰余金** | **409,882** |
| | | 利益準備金 | 90,845 |
| | | 任意積立金 | 281,249 |
| | | 動産不動産圧縮積立金 | 2,508 |
| | | 特別償却準備金 | 41 |
| | | 特別積立金 | 278,700 |
| | | 当期未処分利益 | 37,787 |
| | | **その他有価証券評価差額金** | **175,631** |
| | | **自己株式** | **△9,409** |
| | | **資本の部合計** | **721,849** |
| **資産の部合計** | **8,610,582** | **負債及び資本の部合計** | **8,610,582** |

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 第１００期（平成１７年４月　１日から 平成１８年３月３１日まで）損益計算書

（金額単位：百万円）

| 科目 | 金額 | |
|---|---|---|
| **経常収益** | | 172,458 |
| **資金運用収益** | 133,868 | |
| 貸出金利息 | 94,391 | |
| 有価証券利息配当金 | 36,087 | |
| コールローン利息 | 539 | |
| 預け金利息 | 1,984 | |
| その他の受入利息 | 865 | |
| **信託報酬** | 1 | |
| **役務取引等収益** | 24,377 | |
| 受入為替手数料 | 9,247 | |
| その他の役務収益 | 15,129 | |
| **特定取引収益** | 2,000 | |
| 特定金融派生商品収益 | 1,935 | |
| その他の特定取引収益 | 64 | |
| **その他業務収益** | 2,282 | |
| 外国為替売買益 | 1,522 | |
| 国債等債券売却益 | 705 | |
| 金融派生商品収益 | 53 | |
| その他の業務収益 | 1 | |
| **その他経常収益** | 9,926 | |
| 株式等売却益 | 4,065 | |
| その他の経常収益 | 5,861 | |
| **経常費用** | | 119,756 |
| **資金調達費用** | 25,248 | |
| 預金利息 | 12,367 | |
| 譲渡性預金利息 | 44 | |
| コールマネー利息 | 1,648 | |
| 債券貸借取引支払利息 | 4,604 | |
| 売渡手形利息 | 7 | |
| 借用金利息 | 246 | |
| 社債利息 | 4,122 | |
| 金利スワップ支払利息 | 1,373 | |
| その他の支払利息 | 833 | |
| **役務取引等費用** | 6,613 | |
| 支払為替手数料 | 1,564 | |
| その他の役務費用 | 5,048 | |
| **特定取引費用** | 447 | |
| 商品有価証券費用 | 447 | |
| **その他業務費用** | 5,890 | |
| 国債等債券売却損 | 5,417 | |
| 社債発行費償却 | 448 | |
| その他の業務費用 | 25 | |
| **営業経費** | 75,894 | |
| **その他経常費用** | 5,661 | |
| 貸倒引当金繰入額 | 3,948 | |
| 貸出金償却 | 1 | |
| 株式等売却損 | 378 | |
| 株式等償却 | 95 | |
| その他の経常費用 | 1,236 | |
| **経常利益** | | 52,702 |
| **特別利益** | | 184 |
| 動産不動産処分益 | 181 | |
| 償却債権取立益 | 2 | |
| **特別損失** | | 970 |
| 動産不動産処分損 | 648 | |
| 減損損失 | 322 | |
| **税引前当期純利益** | | 51,915 |
| **法人税、住民税及び事業税** | | 15,717 |
| **法人税等調整額** | | 4,830 |
| **当期純利益** | | 31,368 |
| **前期繰越利益** | | 9,429 |
| **中間配当額** | | 3,010 |
| **当期未処分利益** | | 37,787 |

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 第１００期利益処分案

（金額単位：円）

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| **当期未処分利益** | **37,787,211,147** |
| **任意積立金取崩額** | **169,079,649** |
| 動産不動産圧縮積立金取崩額 | 150,032,036 |
| 特別償却準備金取崩額 | 19,047,613 |
| **計** | **37,956,290,796** |
| **利益処分額** | **34,129,034,302** |
| 配当金（１株につき5円75銭） | 4,072,465,738 |
| 役員賞与金 | 30,000,000 |
| 取締役賞与金 | 25,467,000 |
| 監査役賞与金 | 4,533,000 |
| 任意積立金 | 30,026,568,564 |
| 動産不動産圧縮積立金 | 25,464,075 |
| 特別償却準備金 | 1,104,489 |
| 特別積立金 | 30,000,000,000 |
| **次期繰越利益** | **3,827,256,494** |

# 重要な会計方針

| | 当事業年度<br>（自　平成17年４月１日　　至　平成18年３月31日） |
|---|---|
| 1　特定取引資産・負債の評価基準及び収益・費用の計上基準 | 金利、通貨の価格、有価証券市場における相場その他の指標に係る短期的な変動、市場間の格差等を利用して利益を得る等の目的(以下「特定取引目的」)の取引については、取引の約定時点を基準とし、貸借対照表上「特定取引資産」及び「特定取引負債」に計上するとともに、当該取引からの損益を損益計算書上「特定取引収益」及び「特定取引費用」に計上しております。<br>特定取引資産及び特定取引負債の評価は、有価証券及び金銭債権等については決算日の時価により、スワップ・先物・オプション取引等の派生商品については決算日において決済したものとみなした額により行っております。<br>また、特定取引収益及び特定取引費用の損益計上は、当事業年度中の受払利息等に、有価証券、金銭債権等については前事業年度末と当事業年度末における評価損益の増減額を、派生商品については前事業年度末と当事業年度末におけるみなし決済からの損益相当額の増減額を加えております。 |
| 2　有価証券の評価基準及び評価方法 | 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、子会社及び関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券のうち時価のあるものについては、決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、時価のないものについては、移動平均法による原価法又は償却原価法により行っております。<br>なお、その他有価証券の評価差額については、全部資本直入法により処理しております。 |
| 3　デリバティブ取引の評価基準及び評価方法 | デリバティブ取引(特定取引目的の取引を除く)の評価は、時価法により行っております。 |
| 4　固定資産の減価償却の方法 | (1) 動産不動産<br>動産不動産は、定率法を採用しております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。<br>建物　３年～38年<br>動産　２年～20年<br>(2) ソフトウェア<br>自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間(５年)に基づく定額法により償却しております。 |
| 5　繰延資産の処理方法 | 社債発行費は、支出時に資産として計上し、３年間の均等償却を行っております。<br>また、社債発行差金については資産として計上し、社債の償還期間にわたり均等償却を行っております。 |
| 6　外貨建て資産及び負債の本邦通貨への換算基準 | 外貨建資産・負債及び海外支店勘定は、取得時の為替相場による円換算額を付す子会社株式を除き、主として決算日の為替相場による円換算額を付しております。 |
| 7　引当金の計上基準 | (1) 貸倒引当金<br>貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。<br>破産、特別清算等、法的又は形式的に経営破綻の事実が発生している債務者(破綻先)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(実質破綻先)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(破綻懸念先)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認める額を計上しております。上記以外の債権(正常先債権・要注意先債権)については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。<br>すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。<br>（追加情報）<br>貸倒引当金の貸倒実績率の算定期間は、従来３算定期間としておりましたが、当事業年度より５算定期間に変更しております。この変更は、当事業年度において、現行格付体系での信頼性のある５年分の貸倒実績データの使用が可能となったこともあり、景気変動や特殊要因に大きく左右されない合理的な予想損失率を算定するため実施するものであります。この結果、従来の方法によった場合と比較して、経常利益及び税引前当期純利益は、それぞれ2,456百万円減少しております。 |

| | 当事業年度<br>（自　平成17年４月１日　　至　平成18年３月31日） |
|---|---|
| | (2) 投資損失引当金<br>投資損失引当金は、投資等について将来発生する可能性のある損失に備えるため、投資先の財政状態等を勘案し、必要と認められる金額を計上しております。<br>(3) 退職給付引当金<br>退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。また、過去勤務債務及び数理計算上の差異の損益処理方法は以下のとおりであります。<br>過去勤務債務<br>その発生年度に全額を損益処理<br>数理計算上の差異<br>各発生年度の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から損益処理 |
| 8　リース取引の処理方法 | リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。 |
| 9　ヘッジ会計の方法 | (イ) 金利リスク・ヘッジ<br>金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第 24 号。以下「業種別監査委員会報告第 24 号」という。）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の残存期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。また、キャッシュ・フローを固定するヘッジについては、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。<br>また、当事業年度末の貸借対照表に計上している繰延ヘッジ損益のうち、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第 15 号）を適用して実施しておりました多数の貸出金・預金等から生じる金利リスクをデリバティブ取引を用いて総体で管理する従来の「マクロヘッジ」に基づく繰延ヘッジ損益は、「マクロヘッジ」で指定したそれぞれのヘッジ手段の残存期間に応じ平成 15 年度から４年間にわたって、資金調達費用として期間配分しております。<br>なお、当事業年度末における「マクロヘッジ」に基づく繰延ヘッジ損失は67百万円であります。<br>一部の資産・負債については、金利スワップの特例処理を行っております。<br>(ロ) 為替変動リスク・ヘッジ<br>外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。<br>また、外貨建その他有価証券（債券以外）の為替変動リスクをヘッジするため、事前にヘッジ対象となる外貨建有価証券の銘柄を特定し、当該外貨建有価証券について外貨ベースで取得原価以上の直先負債が存在していること等を条件に包括ヘッジとして時価ヘッジを適用しております。 |
| 10　消費税等の会計処理 | 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。 |

# 注記事項

（貸借対照表関係）

| 当事業年度<br>（平成18年３月31日） |
|---|
| 1　子会社の株式総額　　7,542百万円<br>なお、本項の子会社は、銀行法第２条第８項に規定する子会社であります。<br>2　貸出金のうち、破綻先債権額は5,364百万円、延滞債権額は185,690百万円であります。<br>なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第１項第３号のイからホまでに掲げる事由又は同項第４号に規定する事由が生じている貸出金であります<br>また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。<br>3　貸出金のうち、３カ月以上延滞債権額は937百万円であります。<br>なお、３カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から３月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。<br>4　貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は27,418百万円であります。<br>なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び３カ月以上延滞債権に該当しないものであります。<br>5　破綻先債権額、延滞債権額、３カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は219,410百万円であります。<br>なお、上記２から５に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。<br>6　手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形及び買入外国為替は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は77,930百万円であります。<br>7　担保に供している資産は次のとおりであります。<br>担保に供している資産<br>預け金　　0百万円<br>有価証券　　598,353百万円<br>担保資産に対応する債務<br>預金　　56,400百万円<br>債券貸借取引受入担保金　　79,924百万円<br>売渡手形　　206,000百万円<br>上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、有価証券181,514百万円及び譲渡性預け金1,996百万円を差し入れております。<br>また、子会社、関連会社の借入金等の担保の差し入れはありません。<br>8　当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、1,347,611百万円であります。このうち契約残存期間が１年以内のものが1,285,311百万円あります。<br>なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。<br>9　動産不動産の減価償却累計額　　88,216百万円<br>10　動産不動産の圧縮記帳額　　11,286百万円<br>（当事業年度圧縮記帳額　　― 百万円）<br>11　会社が発行する株式の総数<br>普通株式　　2,414,596千株<br>ただし、定款の定めにより株式の消却が行われた場合には、会社が発行する株式数について、これに相当する株式数を減ずることとなっております。<br>発行済株式総数<br>普通株式　　720,129千株<br>12　商法施行規則第124条第３号に規定する時価を付したことにより増加した純資産額は、177,208百万円であります。<br>13　会社が保有する自己株式の数<br>普通株式　　11,874千株<br>14　監査役に対する金銭債権総額　　19百万円 |

# 比較貸借対照表（主要内訳）

| 区分 | 前事業年度（平成17年３月31日）金額(百万円) | 当事業年度（平成18年３月31日）金額(百万円) | 比較増減（百万円） |
|---|---|---|---|
| （資産の部） | | | |
| 現金預け金 | 472,696 | 383,795 | △88,901 |
| コールローン | 36,512 | 3,061 | △33,450 |
| 買入金銭債権 | 317,571 | 253,923 | △63,647 |
| 特定取引資産 | 122,021 | 85,917 | △36,104 |
| 有価証券 | 2,195,577 | 2,352,779 | 157,202 |
| 貸出金 | 5,041,005 | 5,340,895 | 299,889 |
| 外国為替 | 4,725 | 5,059 | 333 |
| その他資産 | 34,051 | 37,782 | 3,730 |
| 動産不動産 | 60,405 | 59,132 | △1,273 |
| 支払承諾見返 | 126,962 | 151,763 | 24,800 |
| 貸倒引当金 | △71,278 | △63,414 | 7,863 |
| 投資損失引当金 | △596 | △113 | 483 |
| 資産の部合計 | 8,339,656 | 8,610,582 | 270,926 |
| （負債の部） | | | |
| 預金 | 6,780,264 | 6,759,075 | △21,188 |
| 譲渡性預金 | 136,020 | 196,100 | 60,080 |
| コールマネー | 113,720 | 104,512 | △9,208 |
| 債券貸借取引受入担保金 | 151,953 | 79,924 | △72,028 |
| 売渡手形 | 100,000 | 206,000 | 106,000 |
| 特定取引負債 | 5,652 | 32,682 | 27,029 |
| 借用金 | 12,073 | 4,799 | △7,273 |
| 外国為替 | 194 | 128 | △65 |
| 社債 | 204,434 | 200,482 | △3,952 |
| その他負債 | 47,565 | 57,533 | 9,968 |
| 退職給付引当金 | 23,732 | 23,792 | 60 |
| 繰延税金負債 | 16,536 | 71,937 | 55,400 |
| 支払承諾 | 126,962 | 151,763 | 24,800 |
| 負債の部合計 | 7,719,111 | 7,888,733 | 169,621 |
| （資本の部） | | | |
| 資本金 | 90,845 | 90,845 | — |
| 資本剰余金 | 54,892 | 54,898 | 6 |
| 資本準備金 | 54,884 | 54,884 | — |
| その他資本剰余金 | 8 | 14 | 6 |
| 自己株式処分差益 | 8 | 14 | 6 |
| 利益剰余金 | 385,096 | 409,882 | 24,785 |
| 利益準備金 | 90,845 | 90,845 | — |
| 任意積立金 | 251,445 | 281,249 | 29,804 |
| 当期未処分利益 | 42,805 | 37,787 | △5,018 |
| その他有価証券評価差額金 | 98,950 | 175,631 | 76,681 |
| 自己株式 | △9,240 | △9,409 | △169 |
| 資本の部合計 | 620,544 | 721,849 | 101,304 |
| 負債及び資本の部合計 | 8,339,656 | 8,610,582 | 270,926 |

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 比較損益計算書（主要内訳）

| 区分 | 前事業年度<br>（自　平成16年４月１日<br>至　平成17年３月31日）<br>金額(百万円) | 当事業年度<br>（自　平成17年４月１日<br>至　平成18年３月31日）<br>金額(百万円) | 比較増減<br>(百万円) |
|---|---|---|---|
| 経常収益 | 156,079 | 172,458 | 16,378 |
| 資金運用収益 | 119,886 | 133,868 | 13,982 |
| （うち貸出金利息） | 91,699 | 94,391 | 2,692 |
| （うち有価証券利息配当金） | 23,531 | 36,087 | 12,555 |
| 信託報酬 | 1 | 1 | △0 |
| 役務取引等収益 | 23,068 | 24,377 | 1,308 |
| 特定取引収益 | 2,777 | 2,000 | △776 |
| その他業務収益 | 2,306 | 2,282 | △23 |
| その他経常収益 | 8,039 | 9,926 | 1,887 |
| 経常費用 | 108,614 | 119,756 | 11,141 |
| 資金調達費用 | 15,179 | 25,248 | 10,069 |
| （うち預金利息） | 7,354 | 12,367 | 5,012 |
| 役務取引等費用 | 6,380 | 6,613 | 233 |
| 特定取引費用 | — | 447 | 447 |
| その他業務費用 | 3,208 | 5,890 | 2,681 |
| 営業経費 | 74,902 | 75,894 | 991 |
| その他経常費用 | 8,942 | 5,661 | △3,280 |
| 経常利益 | 47,465 | 52,702 | 5,236 |
| 特別利益 | 14,778 | 184 | △14,593 |
| 特別損失 | 3,020 | 970 | △2,049 |
| 税引前当期純利益 | 59,223 | 51,915 | △7,307 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 13,623 | 15,717 | 2,094 |
| 法人税等調整額 | 10,561 | 4,830 | △5,730 |
| 当期純利益 | 35,039 | 31,368 | △3,670 |
| 前期繰越利益 | 10,246 | 9,429 | △817 |
| 中間配当額 | 2,480 | 3,010 | 530 |
| 当期未処分利益 | 42,805 | 37,787 | △5,018 |

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 比較利益処分計算書

| | 前事業年度<br>(株主総会承認日<br>平成17年６月28日) | 当事業年度<br>(株主総会承認日<br>平成18年６月27日)<br>(利益処分案) | 比較増減<br>(百万円) |
|---|---|---|---|
| 区分 | 金額(百万円) | 金額(百万円) | |
| 当期未処分利益 | 42,805 | 37,787 | △5,018 |
| 任意積立金取崩額 | 215 | 169 | △45 |
| 動産不動産圧縮積立金取崩額 | 144 | 150 | 5 |
| 圧縮特別勘定積立金取崩額 | 51 | — | △51 |
| 特別償却準備金取崩額 | 19 | 19 | — |
| 計 | 43,020 | 37,956 | △5,064 |
| 利益処分額 | 33,591 | 34,129 | 537 |
| 配当金 | (１株につき５円)<br>3,542 | (１株につき５円75銭)<br>4,072 | (１株につき75銭)<br>530 |
| 役員賞与金 | 30 | 30 | — |
| 取締役賞与金 | 25 | 25 | 0 |
| 監査役賞与金 | 4 | 4 | △0 |
| 任意積立金 | 30,019 | 30,026 | 7 |
| 動産不動産圧縮積立金 | 19 | 25 | 6 |
| 特別償却準備金 | — | 1 | 1 |
| 特別積立金 | 30,000 | 30,000 | — |
| 次期繰越利益 | 9,429 | 3,827 | △5,602 |

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# リース取引

ＥＤＩＮＥＴにより開示を行うため記載を省略しております。

# 有 価 証 券

○子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの

該当ありません。

# 税効果会計

当事業年度
（自　平成17年４月１日　　至　平成18年３月31日）

1　繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

| | |
|---|---|
| 繰延税金資産 | |
| 貸倒引当金 | 24,163百万円 |
| 退職給付引当金 | 15,575百万円 |
| 有価証券償却 | 7,980百万円 |
| その他 | 6,972百万円 |
| 繰延税金資産小計 | 54,692百万円 |
| 評価性引当額 | △2,294百万円 |
| 繰延税金資産合計 | 52,397百万円 |
| 繰延税金負債 | |
| その他有価証券評価差額金 | △115,824百万円 |
| 退職給付信託設定益 | △6,922百万円 |
| その他 | △1,587百万円 |
| 繰延税金負債合計 | △124,334百万円 |
| 繰延税金負債の純額 | △71,937百万円 |

2　法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が、法定実効税率の百分の五以下であるため、記載を省略しております。

# 重要な後発事象

当事業年度
（自　平成17年４月１日　　至　平成18年３月31日）

平成 18 年４月１日に退職給付制度の改定を行い、確定給付企業年金制度について給付の見直しを実施しその一部を「キャッシュバランス・プラン」（混合型年金）に移行するとともに、確定拠出年金制度を導入しております。
これにより、翌事業年度の損益に与える影響額は、5,168 百万円の益の見込みであります。